

まとまりのある英文で話す力を育む英語科学習活動の創造 —イメージ&ワードマッピング活動を位置付けた学習過程を通して—

所属機関 朝倉市教育支援センター
所属校 朝倉市立南陵中学校
職・氏名 教諭 望月 愛美

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

グローバル化が急速に進み、生涯にわたる様々な場面で国際共通語となる英語が必要とされることが想定されている。社会の発展に向けて共存・協働していくためには、相手の考えや異なる文化を受け入れ、自分の考えや気持ちを理由や具体的な説明とともに発信し、円滑な相互理解を図る力を育てていく必要がある。

(2) 英語科のねらいから

中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）外国語編では、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う」ことが目標として示されている。この目標を達成するためには、子どもたちが読んだり聞いたりしたことをもとに、自分の考えや気持ちを理由や具体例を示しながら表現する言語活動を継続的・計画的に取り入れることが大切である。

(3) 子どもの実態から

4月のアンケートの結果から、コミュニケーションの場面や状況に応じて、必要な文法や語彙を引き出す力、子ども自身もつ背景知識や経験から考えや気持ちを発想する力、経験、自分の考えを構成する力の不足が見えた。このことから、学んだことをもとに誰かに伝えようとする意欲及び身近な話題や社会的な話題に対しての自分の考えと関連する語句を結び付け整理し、理由や具体的な説明を付け加えながらまとまった英文として話す力を育む活動が必要だと考えた。

2 主題・副主題の意味

(1) まとまりのある英文で話す力とは

「まとまりのある英文で話す」とは聞き手の興味関心を意識して自分の考えやその理由に具体的な説明を付け加え、情報を整理して関連させながら話すことを意味している。本研究では「まとまりのある英文を話す力」の構成要素を、「発想力」・「文法力・語彙力」・「構成力」の3つと捉える。

発想力	日常的な話題や社会的な話題について、自身の体験や経験、教科書等で読んだり聞いたりしたことのある内容を踏まえて話すために、何を話すかを英語で想起する力
文法力 語彙力	日常的な話題や社会的な話題について、自分の考えやその理由、具体的な説明を話すために、場面に合わせて適切な表現を使うことができる力
構成力	日常的な話題や社会的な話題について、聞き手の興味に合わせて、自分の考えやその理由を具体的な説明と関連させながら話す力

(2) イメージ&ワードマッピング活動とは

「イメージ&ワードマッピング活動（以下 I&WM 活動）」とは日常的な話題や社会的な話題に対して、整理された画像や語句を見て、英文を頭の中で組み立てながら話す活動である。話題（トピック）を変え導入・展開・終末段階でそれぞれ行うことで「発想力」「文法力・語彙力」「構成力」を段階的に高めていく活動である。

	ねらい	活動内容
I&WM 活動①	日常的な話題に関して、これまでの体験や経験に基づいた自分の考えをもち、既習語彙を使って話すことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題について簡単な英文をALTから聞き、伝えたい内容を考えたのち、必要になる語句をキーワードとして書き出す。 関連する画像とキーワードを用いてペアに自分の考えを即興で話す活動を行う。
I&WM 活動②	単元で読んだり聞いたりした内容に関して自分の考えやその理由、具体的な説明を既習語彙、新出語彙及び文法事項を適切に用いながら話すことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な語彙や文法が含まれている英文を読み、内容や自分の考えに関する事実・推論発問に答える。 まとまりのある英文を読んで、キーワードを抽出し、画像と関連させながら、読んだ英文の内容を要約したものに自分の考えを加えてペアに話す(Retell)活動を行う。
I&WM 活動③	I&WM 活動②と類似した話題に関して伝えたい内容に関するキーワードと関連する画像を用いながら、自分の考えやその理由、具体的な説明を内容に一貫性を持たせて話すことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ①②と類似した話題についてALTの興味・関心聞き、伝える内容を整理する。 話題に関する英文を読み、キーワードを抽出し、関連する画像を加えてタブレット上で情報を整理して、読んだ内容について話す活動を行う。

3 研究の目標

イメージ&ワードマッピング活動を通して、まとまりのある英文を話す力を育む英語科学習指導法の在り方を究明する。

4 研究の仮説

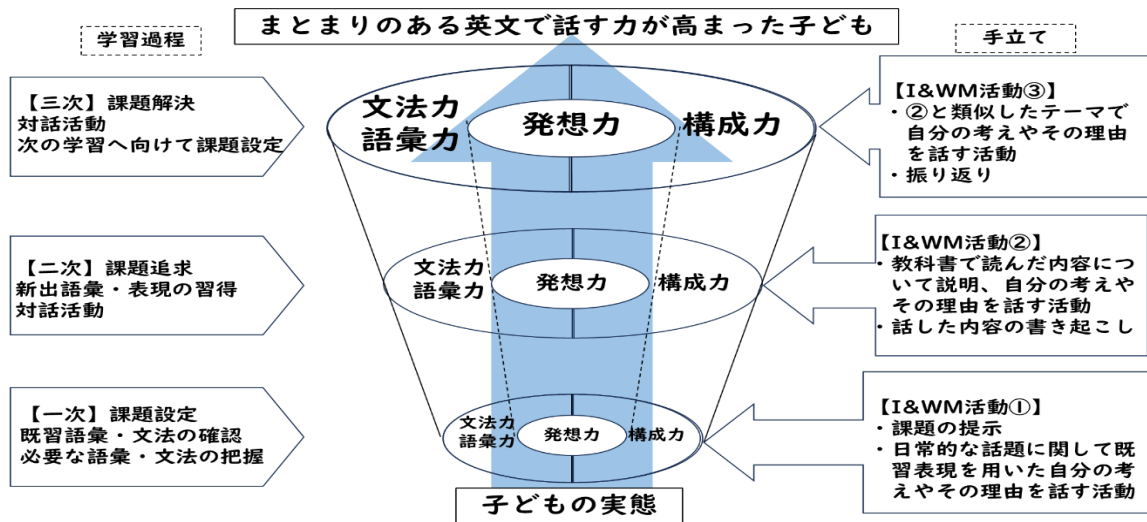
英語科の学習において、イメージ&ワードマッピング活動を位置付ければ、子どもは自身の体験や経験、読んだり聞いたりしたことをもとに自分の考えをもち、その理由、具体的な説明のための英文を関連するイメージとキーワードから整理することができるようになり、聞き手の興味関心に合う英文を話すことができるようになるので、日常的な話題や社会的な話題に関して、まとまりのある英文で話す力を育むことができるであろう。

5 研究の具体的構想

(1) 検証の評価基準

検証内容	検証方法	評価基準
発想力	日常的な話題や社会的な話題について自分の考えや具体的な説明に関するキーワードや画像を選んでマッピングシート上に示すことができたか(VTR)	A 日常的な話題や社会的な話題について自分の考えや具体的な説明に関するキーワードや画像を選んでマッピングシート上に示すことができる。
		B 日常的な話題や社会的な話題について具体的な説明に関するキーワードや画像を選んでマッピングシート上に示すことができる。
		C AB以外
文法力 語彙力	場面に合うように新出表現を適切に用いることができたか(VTR)	A 場面に合うように新出表現を適切に用いることができる。
		B 語形の誤りや語句の不足が見られるが、場面に合うように新出表現を適切に用いることができる。
		C AB以外
構成力	日常的な話題や社会的な話題について、聞き手の興味関心に合うように自分の考えやその具体的な説明を話すことができたか(VTR)	A 日常的な話題や社会的な話題について、聞き手の興味関心に合うように自分の考えやその具体的な説明を話すことができる。
		B 日常的な話題や社会的な話題について、質問されたり、キーワードを示されたりすれば、自分の考えやその具体的な説明を話すことができる。
		C AB以外
まとまりのある英文を話す力	各実践の発想力、文法力・表現力、構成力を点数化して判断する。(A:3点 B:2点 C:1点)	A 発想力、文法力・表現力、構成力を総合した点数が8~9点
		B 発想力、文法力・表現力、構成力を総合した点数が6~7点
		C 発想力、文法力・表現力、構成力を総合した点数が3~4点

(2) 研究構想図



6 研究の実際

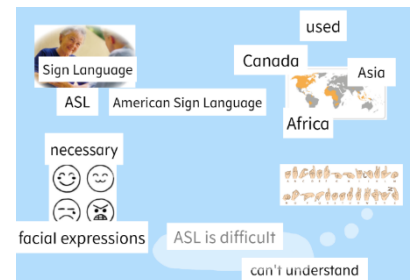
実証事例「ドリーン先生に日本の手話について伝えよう。」

《導入 I&WM 活動①》

導入段階では既習表現を用いて自身の手話の体験や必要性について自分の考えを話すことをねらいとして、実際に用いられている ASL(American Sign Language)のアルファベット表や簡単な挨拶表現でペアで交流し、その難しさや小学校で学んだ手話をするうえで必要なことに関するキーワードを書き出す活動を設定した。また、理由や考えに関わるキーワードを追加できるように、ALT が”Why is it difficult / important?”と問いかけ、マッピングシートに思いついた表現を書き加えた。さらにその後、【資料 1】のようにキーワードを 1 文にまとめて書く活動を行った。

I think ASL is difficult because it takes time to understand.

【資料 1】I&WM 活動①後の記述



【資料 2】I&WM 活動②のマッピングシート



【資料 3】I&WM 活動③のマッピングシート

《展開 I&WM 活動②》

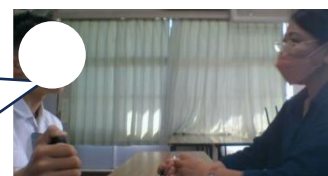
教科書で ASL について読み、本文の要約を行った後、その内容について具体的な説明、自分の考えやその理由を話せるように、【資料 2】のようなマッピングシートを子ども個人で作成させる時間を設定した。これは導入段階で用いたものと同じものを継続して使った。事例 2 では内容の説明も含めてすべてのキーワードを子ども自身が選択して書き入れたマッピングシートを用いて話す活動を行った。その後、ペアで自分が作ったマッピングシートを見せながら読んだ内容の説明と自分の考えやその理由について話し、内容についてマッピングシートを見ながら紙面に書き起こす活動を設定した。

《終末 I&WM 活動③》

終末段階では子どもが展開段階で読んだものと類似した JSL (日本手話) について話すことができるように、教科書のトピックと類似した英文を読み、そこから話すべき内容を精選し、キーワードを抜き出して【資料 3】のようにマッピングシートに書き入れる活動を設定した。子どもは展開段階と同じように、JSL について「どれくらいの人が使っているか」「どのような場所で使われるか」「ど

んなことが大切なのか」の説明をマッピングシートを見ながら話せるように練習した。その際数名の子どもがカードに番号を書き入れており、話す順番まで意識できていることがうかがえた。その後、自分が話す様子を振り返ることができるように、ペア発表の様子を動画撮影を行った。次時では JSL について自分の考えをもつことができるように、ALT が興味があることとして”Should junior high school student learn JSL?”をテーマに子どもに立場を決めさせ、理由を考える活動を設定した。その後、同じ立場の者同士で交流活動を行い、マッピングシートに追加するキーワードを出し合い、自分の考えやその理由に当たるキーワードを書き入れる活動を行った。また、話す内容が増えたことを実感することができるように、再度ペアで録画し合い、話す練習を行った。最後に ALT に JSL について読んだ内容や、自分の考えやその理由を 1 対 1 で話す活動を設定した。

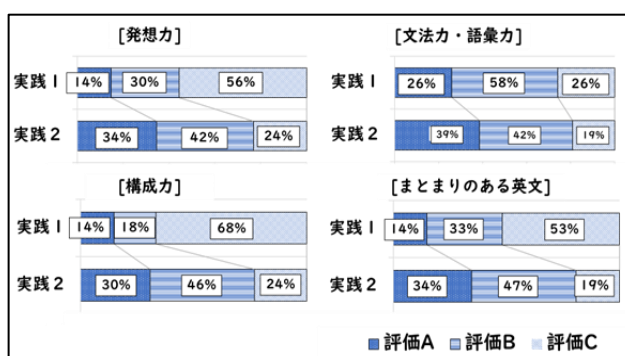
JSL is Japanese Sign Language. There are about sixty thousand JSL users in Japan. JSL is used in shrine. Facial expressions are necessary. [具体的な説明] I think that we don't have to study sign languages because it's very difficult for us. [自分の考えやその理由]



【資料 4】ALT に話す様子

7 研究の成果と課題

3つの構成要素は【資料 5】のように、実践 2 でそれぞれ評価 A、B の子どもが増えた。このことから I&WM 活動は、日常的な話題や社会的な話題について、話す内容を想起し、場面に応じた適切な表現を使ってまとまりのある英文を話すことに有効に働いたと考える。しかし、ただ英文を一方向的に話すのではなく、内容に一貫性があるまとまりのある英文を話す力を高めるために、類似した場面や異なる場面で繰り返し経験を積むことや、話す内容をまとめるための視点をもてるような活動が必要であると考えられる。



【資料 5】実践 1 と実践 2 の検証結果

(1) 研究の成果

○育てたい力に着目し、3段階の I&WM 活動を行ったことで子どもが身に着きたい力を意識して学習活動に取り組み、まとまりのある英文を話すために必要な発想力、文法力・表現力、構成力を高めることにつながった。

○I&WM 活動において自分の考えやその理由、具体的な説明に関するキーワードを画像と関連させることは、話す内容の整理、および適切な文法・表現を選択することにつながった。

(2) 今後の課題

●相手の興味関心に合う一貫性のあるまとまりのある英文を話すためには、類似した様々な場面設定の中で自分の考えをもつための時間を充実させ、問いかけや交流を行い、これまでの経験との比較や、相違点について述べる等の視点に気づくことができるような手立ての工夫が必要である。

●自分の考えやその理由、具体的な説明はそれぞれ話すことができるようになったが、英文の順序や因果関係をはっきりさせるために接続詞やつなぎ言葉、文構造の指導の工夫を行う必要がある。